

令和5年度「知事と市町長の円卓対話」（菰野町）概要

- 1 対話市町名 菰野町（菰野町長 ^{もろおか} 諸岡 ^{たかゆき} 高幸）
- 2 対話日時 令和5年12月27日（水）13時30分～14時30分
- 3 対話場所 菰野町役場4階大会議室（菰野町大字潤田1250番地）
- 4 視察場所 菰野町役場玄関前にて、のりあいタクシー、コミュニティバスを見学
- 5 対話項目
 - （1）太陽光発電設備等の設置と治水対策等の環境の変化について
 - （2）菰野町の観光振興と地域公共交通について

6 対話概要

対話項目（1）太陽光発電設備等の設置と治水対策等の環境の変化について

（町長）

太陽光発電等の設置、治水等の環境の変化ということで、お話をさせていただきたい。

まずは御礼でございますが、8月24日、25日の大雨被害では、菰野町では住宅浸水が2件ありまして、町民の方は非常に大変な思いをされた。その中で、河川の方の決壊もあったが、いち早く県には、現場に来ていただき、今後の復旧のことについて、非常に親切に対応していただいていることに御礼を申し上げたい。次に、河川についても県にもいろいろお世話になっていまして、堆積土砂の撤去等も行っていていただき、災害発生の大きな原因となっているので、今後も担当課の方と相談させていただきたいと思っておりますので、これからもご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げたい。

それでは、太陽光発電設備の設置のことにつきましての懸念材料等も含めて、今日も鈴鹿市さんの記事が伊勢新聞さんの方に載っておりましたが、菰野町も今太陽光発電設備の設置については、町内各所に設置されていて、現在50キロワット以上の施設が53ヶ所、50キロワット未満の施設が338ヶ所の計391ヶ所に上っている。（会場画面に表示の地図上において）緑の斜線が引っ張ってあるのが菰野町の国定公園で、囲っていない黄色のところは砂防区域になっているところで、この砂防区域にも太陽光発電施設が設置されている。河川の周辺にもあるので、大雨時の水害の関係等にも影響しているのではないかと懸念の声もあり、県土整備部ともお話をしてきたんですが、砂防法等の関係も含めて規制することは難しいとのことでした。

令和6年の4月から、国の規則、特別措置法の規則が改正され、どのような動

きになってくるか、私も関心を持って見させていただいている。改正があれば、その後に県のガイドラインも変わってくるのではと思っている。いずれにしても、菰野町については、先ほど来お話をさせていただいているように、鈴鹿山麓の麓に観光施設がある。当然、この砂防エリア等も入っているので、せっかく植樹した檜、杉が伐採されて、太陽光発電施設が設置されているということがあり、そのところの懸念も町民から伺っている。

それと 50 キロワット未満の施設につきましては、届け出義務等の関係がないと、なかなか管理をしてもらえないこともあり、町の議会等においても、その管理を徹底するような条例規則を作ってくれないかというお話をいただいている、これから県とも協議しながら、より皆さんが暮らしやすい、より良い環境の中で暮らしができるような、まちづくりをしていきたいと思っている。

キャンプ場とか、いろんな観光施設が山麓にはあるので、観光に来ていただく方については菰野町の豊かな自然に来ていただくので、その辺のところも含めて、より良い菰野町を見ていただいて観光振興に繋げていきたい。首長としての役割として、町民の安全安心、これからの菰野町をどのように活性化していくかについては、私の使命であると思うので、そのところを今後の課題として、また県とも共有をさせていただいて、お話をさせていただくとありがたいと思いこのテーマをとりあげた。

(知事)

先ほどコミュニティバスと乗り合いタクシーを見せていただき、町民の移動について、しっかりと考えておられて、一定の町の財政を投入をされており、立派なことだと思う。

菰野町は財政力もあり、なかなか苦しいところもあると思うが、町長のお考えで、町民の皆さんのためにやっていて、本当に立派なことだと思う。

そういった菰野町は、私ども亀山の間人から見ても、人口増えて羨ましいなと思っていましたけど、それでもこの5年間で 630 名減っていて、三重県の中では良い方ですがかなり厳しくなってくると思っている。そうした中で、町民の安全安心が一番大事であり、それから町民の命を守るのが町長の一番大事な仕事であると思う。

令和5年8月24、25日の大雨で田口川が越水をしてしまったということで、人命については大丈夫だったと伺っている。原因は河川の曲がり方が越水を起こしやすい形状ということで、国道306号の上流側については、令和5年度から令和7年度まで、治水対策をやらせていただいている。それから国道306号の下流側については、令和5年度から令和6年度に護岸復旧をやらせていただいている。これをやることで今後は越水が生じないようにやっていきたいとい

うのが県の考え方です。また、渇水期の時期に工事に入れるようにやっていきたいと思っていますし、それから河川パトロールをやっているのも、これによって、連携して川の水が溢れないような対応を、その時その時でやっていきたい。予算も確保しながら、事前防災の対策を進めていきたいと思っています。

仮に越水した時も田んぼとか、住居でないところで越水をさせるという流域治水の考え方を、5、6年前から国交省も執りだして、そういったところも、菰野町の皆さんとお話をさせていただいて、仮に越水したときでも対応できるようにということは進めていきたい。

太陽光発電ですけど、全国で自然再生エネルギーの中では、陸上風力に次いで、大きな電力量を確保している。三重県も全国で言うと太陽光発電は5位か6位の発電量であり、太陽光パネルは割と県内いろんなところに設置がされている。ただ大体設置がされ終わっているのも、新しく設置というのはあまり考えられないが、設置をする場合でも、環境影響評価で知事の意見書を出すことになっている。それからさっきご指摘をいただいた、今年の6月にカーボンニュートラルを進めるための電気事業法の改正法が制定され、それによって新しく太陽光パネルを作るときには、協議をして地元の了解を取るという形になっている。それを今後、ご指摘いただいた平成29年に県で定めた「太陽光発電施設の適正導入に関するガイドライン」に、先ほど申し上げた法律の中身を取り込む形で、改定を今やっているのも、太陽光発電をこれから設置する、或いは新しく改修する時は、地元の了解が必要になる。

県としては、ガイドラインのこの改定に向けて、県内の全市町の皆さんにどういうふうに考えているか提案をいただく、或いはその調査をするということをやらせていただいている。実際に現場でやっているのは市や町の皆さんですので、皆さんの意見をいただきながらより良い方向を目指していきたいと考えているところです。

対話項目（2）菰野町の観光振興と地域公共交通について（観光振興）

（町長）

菰野町と言えば、御在所ロープウェイや湯の山温泉を中心とした観光で栄えてきた。昭和34年に御在所ロープウェイが進出されて、一気に観光地としての名をはせ、ホテル旅館が多く進出してきたが、町民、国民の生活スタイル等が変わり、旅行の形態も随分変わってきた。湯の山自体が、衰退と繁栄を繰り返してきたわけですが、昭和34年以降にホテル旅館が33、34棟あったものが、今では11、12軒になっている。3分の1になつてるといふようなことです。後ろのテレビで見えるように、ロープウェイから見た風景ですけど、大きな廃屋があり、この辺のところは随分と湯の山の観光振興の足かせになっている。そのところ

を今後どのようにしていくかということをおもひはしっかりと考えていかないといけない。

その現状を申し上げますと、湯の山温泉は宿泊で、昭和 58 年に 72 万人いたが、令和 4 年には 11 万人まで減少し、約 6 分の 1 になっている。ホテル旅館数が先ほど申したように、30 軒が 10 軒余りになってきており、湯の山温泉が成り立たなくなってくるのではと私としては懸念をしている。その反面、観光事業者の方については、御在所ロープウェイについても、平成 30 年にリニューアルオープンをして耐用年数を延ばし、新型のゴンドラを導入した。それと山頂で、展望レストランをオープンし、モンベルの御在所店もオープンしていただいて、活性化に寄与していただいている。平成 24 年にはアクアイグニス、平成 31 年にはアスレチック施設のフォレストアドベンチャー湯の山という野外の観光施設もできていて、日帰りの環境が、後ろに見ていただくとわかるんですけど、上が日帰り客、下が宿泊客で、湯の山の日帰り客が平成 25 年にぐっと伸びていて、これはアクアイグニスが菰野町へ進出していただいたことで伸びているものの、それ以降はコロナ等もあり、去年は 118 万人になっている。

合計でも伸びてきているものの、やはり宿泊客が菰野町全般でも昭和 58 年の 84 万人に対して、16 万人になっているので、その辺のところをしっかりと考えていかないといけないが、なかなか菰野町単独で、手を打っていくことは難しく、今いろいろな観光業者と一緒に語り合ったりはしているものの、やはり北勢の 5 市 5 町、また県の各市町のそれぞれの観光の施設っていいですか、市町の魅力をすぐ繋げていきながら、県外の観光客を誘致して、日帰り客だけではなくに宿泊客も活性化をしていかないと、私どもの今までの開湯 1300 年を迎えた歴史のある湯の山自体が成り立たなくなってくるのではないかなと感じている。これらのことも含め、県もいろいろ観光連盟も含めて、この間も総会等もあり、いろいろな PR をしていただいているけども、もう一つなんとか、進めていただくようなことを互いに協議しながらやっていただけるとありがたいと思い、このテーマとさせていただいた。

(知事)

私が知事になってから、三重県の観光予算は当時 12 億円ぐらいだったが、それを倍増ということで 24 億。それから 2 年目もさらにその 15% 増というふうに増やしてきている。

三重県は観光地が多く存在し、多くの人に来てもらえるいい場所なんですけど、今までは、はっきり申し上げますとお伊勢さんにあぐらをかいて、あまり観光行政に力を入れてこなかった。それでもこれから、先ほど町長のお話にもあったように人口減少がどんどん起こってくる中で、日本人の数が減ってくるので、今まで

みたいに社内旅行で来てくれる人もいなくなってくる。外国人を含めて多くの人を、例えば東京、名古屋、大阪からも来てもらう。わざわざそのために来てもらうということをしていかないといけない。そのために宣伝が大事ですし、加えて、その観光地を多くの人に来てもらえるような設えもしていけないといけない。そのためお金が必要になってくる。

私も観光行政を何年かやってきたので、観光にはお金がかかるということとはよくわかっている。普通の財政的な考え方でいくと、観光みたいなものは遊びなので、どんどん削っていけというのが、従来の考え方だった。これではダメだということで、国はどんどんお金を観光に投入をするようになってきた。財源が安定的でないとなかなか難しいところもあるけども、これからますますそうやっていかないと定住人口、人口が減ってくるので、その時に経済を維持していくためには交流人口という形で、そこを訪ねてくださる人を多くしていけないと雇用も生まれなし、経済も今まで通りにはいかない。

翻って考えると、湯の山は非常にいい観光地で、ロープウェイは私が子どもの時には、たしかアジア1の支柱を持つロープウェイという宣伝があったと思いますし、それからカモシカが間近に見えるというのもないわけで、夏の暑いときでもロープウェイで湯の山の上まで登ると、赤とんぼが飛んでいたり、普段、下界にはない別天地みたいなところがある。加えて、湯の山はセブンマウンテンズの一つであり、山登り、私も名古屋に勤務していた時に、子どもを連れて山登りをしました。山登りをするにもいい場所であり、なんとか湯の山に活気が戻って欲しいなというふうにも思う。

この年明けには、高校の同窓会が湯の山であり、来ることになっているので、また湯の山の良さも再認識したいと思っている。

湯の山といえばロープウェイもあり、カモシカもあり、それから大石内蔵助ゆかりの場所というのもあって、それちょっとどうやったら湯の山活性化するかということ、知事になる前から若干考えていた。難しいのは、道がそんなに広くない。イベントをしたりする場所もあまりないので、途中で何かイベントするところがない。そこら辺が旅館或いはホテル街でなかなか難しいところだと思う。

ただ、名古屋に近いというメリットは湯の山は持っているのですが、湯の山の観光協会の方ともお話したこともあるのですが、ターゲットをどこにするのか明確にした方がいいですよって話をした。三重県もそうだけど。実は三重県は黙っていても、名古屋の中京圏の人と、それから関西圏の人は来てくれる。それぞれが誘客をしないといけないので、いろいろなイベントをやったりはするけども、東京で何もやっていなかった。三重テラスは出していたけども。

例えば電車の広告とかも出してなかったですし、駅で三重県に来てくださいってことも出してなかった。SNSとかでの発信はやっていたんですけど、電

車で見てもらうのも、駅で広告を出すのも大事で、その交通系のサイネージって言いますが、それを知事になってやりましょうということでやり始めている。実は以前から伊勢市と志摩市はそれをやっていたが、三重県全体ではやっていなかった。それを出させていただいている。そこは図柄を季節ごとに変えているので、やがて北勢の、以前はなばなの里を出していたと思いますけど、湯の山温泉もこれから候補の一つとして考えていかないといけないと思っているが、さすがに東京から湯の山温泉に来てくれるかどうかというところもあるので、これも考えていかないといけないと思っている。

だとすると、最初のターゲットはどこにするのかということですが、名古屋はありじゃないかなと私は思っていて、湯の山の観光協会の方に、例えば名古屋のどこでもいいが桜通線でもいいし、伏見の駅とかでもいいし、東山線でもいいんですけど、地下鉄に広告を出されていますかって聞いたら、出してないとおっしゃっていた。湯の山に名古屋の人を呼ぶには、地下鉄広告だけがすべてではないですが、普段から露出することが大事ではないかなと思う。これはお金もかかるが、お客さんを呼んでくるために、考えていただくのも大事だと思う。これはどっちかという、誘客のためのプロモーションって言いますが、働きかけです。ターゲットを決めて、そこでどういう手段でPRをしていくかということを考える必要がある。

加えて大事なのはやっぱり観光地としての魅力をどう高めていくかということ。これは二つの大事なところ。観光インフラの整備と言っているが、大体今までの観光行政はそのようなことをしていない。PRだけをしてイベントをやって、よかったよかったって言って、それでお客さんが来たかという、それはわかりません。これが観光行政の悪いところで、実は20年ぐらい前に、観光庁を国で作ったが、その前には観光部があって、観光部はお金もなくてイベントしかしていなかった。三重県の観光行政も実はそうだった。それではいけないということで、令和5年度、周遊を促すための補助制度を作り、ホテルとかそれから観光資源の改修にお金をかけるようにした。湯の山も同じ話かと思う。

廃屋になったホテルがあったが、これは去年から観光庁で予算を用意してくれて、全額ではもちろんないが、そういった古くなったホテル、お化け屋敷みたいなホテルが全国各地にあり、それを自治体で撤去するわけだが、それを支援するというのを国の方で考えてくれている。そういったものも、本当はそこを持っている人がちゃんとやっていかないといけないのですが、作りっ放しで、放りっ放しで逃げてしまう人もいるかもしれない。そういうことがないように国の方でも支援をするっていうことを考えてくれているので、そういったものを使い、観光地を綺麗にしていくことが大事です。

それからアクアイグニスのように、私も見させていただきましたが、綺麗な

ところですし、お菓子もあるので、お客さんを呼べると思う。アクアイグニスを作られて本当に立派なことだと思いますけど、あれを核にして、できたら今の観光を昔みたいに物見遊山で、お土産を買って帰る。湯の山のピンク色の缶の煎餅は美味しいけど、それだけではいけないので、今の観光は体験型の観光と言われている。何を体験してもらおうかっていうことが大事。例えば、家族連れで来られて、湯の山をロープウェイで登られた時に、何を求められるのか。山歩きが好きな人も来られるので、湯の山の場合はロープウェイで半分上にあがって、周辺散策ってあまりできません。結構急峻なのですぐに下りになる。東京の高尾山はロープウェイで上がってちょっと歩ける。そういう場所を作れるかどうかって言ったらずその山の形状にもよるので、なかなか難しいところはあるかもしれないが、滝があったとは思っているので、そういったところに、散策道を作るとか、そういう意味ではちょっと道が狭いんで難しいですねって言ったらず、そこもあるのですが、歩くような道が作れて、体験ができると、山の植物なども見れるようなことになれば、一つの観光名所になっていくと思う。ここは地元の人の方がよくご存知なので、私あまり日々湯の山温泉に来てるわけでもないの知恵はないけども、そういったことをやっていって、観光名所を、観光魅力を高めていく必要があると思う。

あと滞在型あるいは体験型で、どんなふうやっていくのかは湯の山温泉だけに限らず、菰野町全域で考えていかれることになると思う。例えば、一昨日に熊野の円卓対話をやらせていただいたが、熊野の市長さんは、土地もあるってこともあるのかもしれないが、農業公園を作るということで、あと6年後か7年後に開業を目指してやっている。11年度オープンっておっしゃっていた。かなりの金額を投入されるということで、30億円ぐらいの予算とおっしゃっていた。熊野は花火とかで来られるが、通過型の観光になっている。熊野古道を行かれる人はいるけれど、良くて一泊。そうでなければ通過をして、伊勢神宮から新宮の方へ抜けていってしまう人もいるので、そこを何とか止める。ダム効果みたいなことを考えられて、農業体験ができる公園を作るっておっしゃっていた。

熊野に農業体験に行かれる人もいると思うが、菰野町は実は土地の特性としては、さっきも言いましたように名古屋に近いので、名古屋、四日市で仕事をされている人が休日に自然に触れに来るってということも考えてもいいのかと思う。ドイツではクラインガルテンという制度があって、街中で働いてる人が休日は別荘でもないが郊外にある、自分が権利を持っているところに行って、農作物を作るってということもある。そういったことを三重県内、亀山もそうだが、自分の畑があるのですぐに作ってしまうけども、名古屋の人だったら、土地を持っているわけではないので、そういった方を休日に呼び込む。車で来たらすぐなので、そういうこともできるのではないかな。それから、新名神が通ったので、菰野は随

分便利になり、西の方からも来られると思う。そういったことも、考えられるのではと思う。

それから県として協力をさせていただくとすると、私の役所時代の国交省の時の同期生が、今、鉄道会社で働いていて、彼はずっと観光をやっていた。フランスの大使館にもいて、彼が言っていたのは、フランスの旅行代理店が関空にフランス人を送り込んで来て、その旅行者の一団がバスに乗って名古屋まで行き、途中で菰野の田んぼで昼飯休憩とる。そこで弁当が出るので、菰野にはお金が落ちないけども、ルートがあるとのこと。菰野に来るなら亀山にも来てもらえないかと思ったりするけども、菰野の田んぼの風景を見て喜んで、またバス乗って名古屋に行く。ということは、菰野に観光資源があるわけなので、そこで何とかお金を落としてもらおうと考えられると思ったりする。その人とは今度会うので、どういうルートなのか、詳細に聞いてみようと思っている。日本人は先ほど申し上げた湯の山とか、或いは何らかの体験で呼ぶというのも大事だと思うが、訪日観光客は日本らしい風景を求めてて、菰野にはその風景があるので、どうやってそこに留めるかを考えるのも一つのやり方ではないかと思う。

それから、今度1月8日からタイに行くので、日本の、三重県の観光魅力を宣伝してくる。今日、その打ち合わせをして、タイ人って何が好きなのかという話をしていて、彼らは実は、コロナ前は、三重県に来てくれる国の中で4番目だった。彼らは三重県の自然を見たいというのと、それからグルメであろうと。これはどこの国でも大体そう。私が観光行政を以前やっていた時に、アジアの人らは雪が好きで、菰野は雪降ると大変なことになってしまうが、雪が降る場所で、湯の山はすぐ近いところで雪が見える場所でもある。季節によるが、そういったことも売りになるのではと思う。タイに行ったときに湯の山を売りませんかと投げかけたところで、資料をこれから作るわけだが、その中には是非、諸岡町長から今日お話をいただいたので、菰野を湯の山温泉を入れていきたい。宣伝だけではないが協力をしていきたい。

それから先ほどちょっと途中で申し上げた、今年度、周遊を促す補助金を県で用意していて、2億4000万ほどで3ヶ所、今やっているが、明和とか亀山とかで今年度やっている。これはこれからも続けていくので、もし菰野の方で、周遊観光、周遊観光というのは拠点となるホテルがあって、その改修にも補助制度があるので、もしご興味がおりましたら、お話もさせていただいて、是非ご活用いただければと思う。

あの手この手で、多くの人に来ていただくということを考えていかないといけないので、ご協力をさせていただきたいと思う。

(町長)

いろいろな方と連携していて、実は湯の山の1000メートル級の山のところは、大体8000万年くらい前に火山活動があって、その後200万年か300万年前に地殻変動で隆起したのが今の鈴鹿山脈と言われている。

ご存知のように、三滝川も白い石、要するに花崗岩です。花崗岩は、その隆起した時に地中に一緒に出てきて、それが風化等によって外に現れて、湯の山の中でも御影石とかいろいろ出ている。花崗岩の中にラドン、ラジウムが含まれていて、それが湯の山温泉の、ラジウム温泉の元となっている。ご存知のように鳥取の三朝温泉、あそこはラドン温泉ですけど、ラドンというのは大気中に気化するというので、県にもいろいろお世話になっていて、保健環境研究所の森さんと愛知の医療短期大学で実験をして、どういう影響があるかを研究した。その許可をもらうのに、実は私自身が体感し、その効果検証について調べていただいたら体にホルミシス効果があるようなことでした。その辺のところを発信して、湯の山の活性化につなげていきたいなと思って、今もいろいろと会議等をさせていただいている。そのようなところを含めて、またご報告申し上げますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

(知事)

わかりました。

ラドンは非常に有効で有益なので、観光資源になる可能性あると思う。これからの観光は体験と申し上げたが、健康も一つのキーワードですので、そういったものを打ち出していかれるのがいいと思う。県としても協力させていただきたいと思う。

対話項目(2) 菟野町の観光振興と地域公共交通について (地域公共交通)

(町長)

先ほどコミュニティバスとデマンドタクシーについては見ていただいた通りですので、その辺のところは控えさせていただき、課題の部分について少し触れさせていただきます。

ご存知のように、今高齢者の手段の確保が非常に難しくなっており、もともとは菟野町内を二本の路線バスが走っていて、それで特に問題はなかったわけですが、高齢化ということで、できるだけ家の近くまで来ていただきたいというのが、本音のところでは。

いかにそれを確保していくかということが大きな課題です。一つは、通学路等、それと病院です。町民の方の中には、いなべ総合病院さんや暁高校とか、四日市高校へ行かれてる方も見えますので、コミュニティバスが他の市町に入り込ん

でいくことをこれから移動手段として考えていかないといけない。

令和6年に保々駅に繋ぐことができないかという実証実験をさせていただく予定をしており、できるだけ身近な使いやすいコミュニティ、要するに公共交通体系を作っていきたいと思っている。その中では県のいろいろな補助金もあるようなので、地域事業の補助金もあるので、そういうところもご協力賜りながら、できれば増額をしていただくとありがたいと思い、そういった課題を申し上げながらお願いをする次第です。よろしく申し上げます。

(知事)

交通は本当に大事だが、県は今まであまり関わっていなかった。市域、或いは町域を超えて路線バスが走っていた場合に、その赤字を補填するような補助制度はあったが、地域が域内の交通をどうするかについては、県は関わってこなかった。これはどこの県もそうです。交通制度の弊害であり、行政組織の弊害っていうのですかね。

実は私が入ったのも運輸省という役所ですけど、運輸省は地方の仕事を県にやってもらうという制度ではなかった。運輸省は地方の行政については、ここで言うと中部ですけど、名古屋にある中部運輸局というところに仕事をしてもらって、さらにその下の行政、三次、二次地方機関という、一次地方機関が地方運輸局ですけど、二次地方機関っていうのは、昔で言うと陸運支局です。今は運輸支局って名前に変わって、平成3年から変わっていますが、運輸支局で仕事をするということで、その運輸局なり運輸支局が各市、それから町と交通をどうするかって議論をしていたので、県で仕事をしていなかった。国で縦で一本で仕事をして、補助金も含めて、私も名古屋の運輸局で部長をやっていたが、その時にコミュニティバスを支援する補助金もあって、年間1自治体、1000万か2000万の補助金がありました。私の時は、平成13年から15年まで部長をやっていたが、愛知県の豊根村、三好町、今はもう合併されたけど、岐阜県の白鳥町、そこに補助金を出して地域のコミュニティバスを運行していただいたと記憶をしている。

これではいけないと思って、これは観光と同様ですが、交通面でも知事になってから、これから考えていかないと、はっきり言うと、県内のお年寄りには80はまだお元気ですけど、90になっても90超えても、自分で運転しないといけなくなっている。実はうちの親もそうだが、まだ90超えてませんが、体が悪くなっても運転しないとどこも行けないというのが実態です。うちのもうお亡くなりになった長老、10年ぐらい前に、90超えて運転されていたが、耳が遠い。軽自動車に乗って村の中を走るわけですが「危ないんちゃいますの」って言ったら、「大丈夫、大丈夫。シートベルト付けとるで。」いやそういう問題と違って、聞

こえないなら運転したらいいけません。だけど、これが実は笑い話みたいな話ですが実態です。

スーパーに行くにも、町役場に行くにも、或いはお墓の花を買いに行くのも車に乗らないと動く手段がない。まだ、山の中なので車で行ってもいいかもしれないけど、本当に怖いのは、町中へ病院に行くときにご高齢の方が小学生の通学中の列に突っ込んで、子どもを殺してしまう。これは行政が何もしてないからじゃないかと。

そういう意味で先ほど冒頭申し上げた、町長の陣頭指揮でやっている公共交通はすばらしいと思う。これは継続的にやっていかないといけないと思っている。三重県でもこの4月から、交通行政を担当する課を、県庁の人に頼んで作ってもらった。今いろいろな実験を令和2年ぐらいからやっている。菰野町でも実はやっていただくということも考えていて、今、南伊勢町それから桑名の方で実はやっている。これからまた手を挙げていただいたら、支援をさせていただきたい。担当の組織も作ってしっかりやっていこうと考えている。来年はいくつかの市と町で、町域全体、地域全体でどんな交通があるのかという、今まではスポットスポットで路線ごとみたいな支援の仕方をしていたが、全体でやっていこうと考えているところです。

お年寄が頑張って、自分で運転しないといけない社会を何とか変えていかないといけない。免許返納と言うのは簡単だが、免許返納できるところって東京か名古屋の中心部か大阪の中心部しかない。他は免許返納したら生活できない。それはまずいので、菰野町がやっているように、コミュニティバスを走らせて、デマンドって言いますが、ここからここまで行きたい時に、タクシーに乗って、フィーダーと本線と言いますが、タクシーからフィーダー路線、タクシーから本線であるバスに繋いで、これをやっていきたいと思う。最適な交通のやり方がどういうやり方なのか、これをやっていく。

例えばある市の市長が言っていたのは、もうやるやる詐欺はやめたと。実はバスを走らせる、それから乗り合いタクシーも何とかやっている。やってる、やってるって言いながら、その市ではお年寄りは自分で運転しないと動けないということで、県には限界があるが、市や町で一生懸命やっておられると、その市長も来年はしっかりやりますということで、その市全域で実験も含めて計画を作ってください、進めていただこうと思っている。そういうところ、県も支援をさせていただく。実際にやっていただくのは町や市なので、補助制度も考えていきたいと思う。

三重県は割と貧乏、お金もそんなに潤沢な県ではないが、それでもそういったところにお金をまわしていかないといけない。県民の安全安心に結びつく部分なので、これから菰野町ともお話をさせていただいて、どんなやり方があるのか

をしっかりと考えさせていただく。一緒になって、県民のそして町民の皆さんの安全安心のために働いていきたいと思いますので、よろしくお願いします。